

## タイ文化圏における山地民の歴史的研究

### 2008年度第2回研究会

日時 2008年9月21日(日)午後13:30~18:00

場所: AA研セミナー室(301)

報告:

1. 共同研究員全員  
「『叢書:知られざるアジアの言語文化』について」
2. 新江利彦氏 (東京外国語大学AA研フェロー)  
「フエ郊外の山地民と越人(京族)の関係について」  
「チャム藩王国と越南帝国フエ朝廷の関係について:二つの「チャム王家年代記」をめぐって」
3. 小島敬裕氏(京都大学大学院博士課程)  
「中国雲南省徳宏地域におけるタイ族の上座仏教と在家信者」

### 研究会開催の趣旨

この度の研究会では二つの課題が設定されていた。一つ目はベトナムにおける越人と山地民の歴史的關係を検討することであった。これまでの研究会では、越人と山地民が取り上げられることがなかったが、この度は新江利彦氏にフエにおける山地民研究を紹介して頂いた上で、二種類の『チャム王家年代記』に関する報告を頂いた。この報告は本年第一回研究会において新江氏から提出された、チャム族の年代記を和訳して『叢書:知られざるアジアの言語文化』の一冊として刊行する計画と関連する発表であった。

二つ目の課題は上座仏教であった。山地民、特にモン・クメール系民族は、タイ系民族から上座仏教を受容した場合が少なくない。上座仏教が如何なる歴史的経緯によって山地民社会に普及していったのか、またタイ系民族の上座仏教はそもそもどのような特徴を有しているのかについては不明な点が多々ある。この度の研究会では、雲南の徳宏州で長期に亘るフィールドワークを実施した小島敬裕氏に、タイ族上座仏教の特徴について発表して頂いた。在家信者という特徴は、タイ族の上座仏教が山地民の間へと弘通した過程を理解する上でなおいに参考になった。(唐立)

### 報告の要旨

1. 『叢書:知られざるアジアの言語文化』について  
本年度、このシリーズで刊行予定の『ワ族の神話と民話』作成の進行状況について、担当者の山田敦士共同研究員から報告があった。(唐立)
2. フエ郊外の山地民と越人(京族)の関係について  
チャム藩王国と越南帝国フエ朝廷の関係について:二つの「チャム王家年代記」をめぐって  
フエ郊外の山地民と越人(京族)の関係について

フエ(漢名「順化」)はベトナム中部の学術都市であり、阮朝越南帝国の旧都である。フエ郊外の山地民(タオイ人、カトゥー人)と越人(キン人)の間の心理的關係は、山地民は特に被害者意識は無いが、越人のほうはかなり一方的で思い込み的な征服者(加害者)意識、よそもの(移住者)意識、贖罪意識、優越感を抱いている。山地民と越人の歴史は、基本的に、移住の歴史であるといつてよい。山地民はいわゆる先住民族であるが、本人たちの自覚は遠い昔にどこか別の場所から移住してきた者であり、その点において越人と違いはない。越人の中に、土里人と呼ばれる、古いチャンパー王国の後裔、先住者を自称する者たちがいる。土里人の初出は楊文安『烏州近録』(1553)であり、その記述に拠れば土里人たちは越王を助け明の侵略軍と戦った英雄的な人々である。1995年、土里人の名家(王家の後裔)で

ある制家の研究が、制氏紅花という制家出身の研究者により始められたが、その研究は漢文家譜における正統（嫡流）と副系（王の姓である制姓を戴いた隷属民）の違いを明らかにし、副系であることを証明された人々の失望・落胆をもたらしたため中止された。この結果、人々の歴史という点では、山地民についても越人についてもその由来研究は停滞してしまっている。現在のフェ郊外山地民研究の主要な潮流は、近世の徴税活動を中心とする交易ネットワークや、現存の民家や薬草などに関する土着知識研究であるが、特に越人の文系若手研究者たちにスキル上の重大な欠落があり（漢文、仏文、ラオ文の史料が読めず、タオイ語・カトゥー語が話せない、つまり、原史資料に触れることが完全に不可能）、まず基本的な能力建設を行う必要がある。幸い、タオイ人、カトゥー人の中から自文化研究者が現れ始めており、こちらのほうは今後の進展が大いに期待できる。

### チャム藩王国と越南帝国フェ朝廷の関係について

チャム藩王国（漢名「順城鎮」1695-1832）は、阮朝越南帝国やチャム人自身の見解では、チャンパー王国（漢名「占城国」192-1471）の後継国家である。チャム人は崑崙種（マレー系）であり、回教を奉じ、占俗と尼俗の二つの慣習法共同体に分かれる。チャンパーは元々中部全域を領有していたが、大越・広南の南進により南端に追い詰められ、独立を失って藩王国に転落し、1832年に改土帰流により消滅した。その後、旧王の阮文承、イスラム教過激派と山地民が連合を組んで黎文傀、黎文俱の乱（1833-1835）に加担し、藩王国の再興を図り、官軍によって平定された（1835年末）。現存する『チャム王家年代記』は、藩王国解体の年（1832）に編纂され、1889年に平順省パレイソップ（旧王家の荘園）で発見されたアンナン版と、1932年にカンボジア・トボンクモム州のチャム貴族の家で発見されたカンボジア版がある（報告ではアンナン版・カンボジア版の全訳を示す）。越南帝国の正史（朝廷が公認した史書）の中に、即位前の阮世祖嘉隆帝が編纂させた『大越史記』庚申版（1800）がある（黎文休『大越史記』（1272）とは別の書物）。『チャム王家年代記』アンナン版は、その建国の年（遷都の年）が『大越史記』庚申版と完全に一致するため、作為の疑いがある。アンナン版はその跋で「833年の歴史」といいながら、821年目（1822年）をもって筆を擱いている。1832年、チャム藩王国解体後直後、フェ朝廷はフェ及びパリク（平順省北平県チョラウ市鎮）に占城国王廟を建設した（『大南実録正編』、『阮朝地簿研究：平順』）。アンナン版は、この「国営」占城国王廟における祭祀のために、伝統を継承して作成されたものである可能性がある。この故に、黎文傀、黎文俱の乱に加担し、八つ裂きの刑（凌遲）に処された最後のチャム藩王阮文承及びその前任者阮文永は、朝廷に遠慮して削除されたのではないか。一方、カンボジア版に関して、カロン溪谷（平順省北平県潘山社、潘林社）などベトナム中部高原南方には、アンナン版には登場せずカンボジア版にのみ見える王たちが神格化されて実際に祭られている（新江利彦著『ベトナムの少数民族定住政策史』風響社2007）。カンボジア版もまた、完全な創作ではありえず、伝統を継承したものである。（新江利彦）

### 3. 中国雲南省徳宏地域におけるタイ族の上座仏教と在家信者

東南アジア大陸部を中心に広く信仰されている上座仏教は、均質のパーリ語聖典を保持し、出家主義、持戒主義を特徴とする。こうした共通項を持ちながらも、各地における実践形態には、社会的経験の相違がもたらす多様性が見られる。従来の上座仏教徒社会に関する研究は、おもにタイの事例を対象として理論化が進められてきたが、タイ以外の地域で実践される仏教と社会のあり方については十分な研究蓄積があるとは言えない。本発表の研究対象とする雲南省徳宏タイ族・ジンポー族自治州は、中緬国境に面しており、中国と東南アジアの周縁部に位置づけられる境界的な地域である。住民の多くは徳宏タイ族が占めており、彼らは上座仏教を信仰する。その実践には上記のような東南アジア大陸部との共通性が見られる一方、出家者数がきわめて少なく、在家信者を中心として仏教が実践される点が、他地域と大きく異なっている。このことは、徳宏と同様、文化大革命期に宗教の破壊を経験した西双

版納において、文革後は出家者数が再び増加に転じていることと比較すると対照的である。では出家者数が少ないにもかかわらず、なぜ上座仏教の実践が存続しうるのか。出家者が少ない状況において、誰が、どのような上座仏教を実践しているのか。また出家者が継承するとされてきた仏教的知識は、どのように継承されているのか。本発表では、これらの問題の考察を通じて、徳宏における世俗社会と仏教の関わり方の特徴を明らかにする。徳宏では今まで長期フィールドワークに基づく研究が少数にとどまっていたため、本発表では瑞麗市郊外の農村における1年間の定着調査で得られたデータをもとに検討する。

出家者が少数にとどまることの要因として考えられるのは、他地域とは異なり、男子が一生に一度は出家すべきという規範が存在しないことである。また村落儀礼において出家者が必要とされるケースは限られているため、多くの村落では出家者を常駐させることに対して積極的ではない。出家者が存在せずとも誦経能力にすぐれた在家信者の代表ホールー、雨安居期間中の布薩日に戒律を守って寺籠りをする老人ヒンラーイ、老人の代表者サンマティらを中心に、仏像や仏塔への寄進を行うことによって村落の積徳儀礼は成立するのである。一方、悪霊の除祓儀礼は、悪霊祓い師サーラー、霊媒ザウザーイ/ザウラーン、そして一部の僧侶によって行なわれる。彼らの仏教的知識の多くはミャンマー側からの人の移動にともなってもたらされたものである。また出家者を介さず在家信者間で知識が継承されるケースもしばしば見られる。東南アジアの周縁部におけるこうした事例の検討は、上座仏教の知識の担い手は出家者であるといった先行研究での前提に再検討を促し、新たな視座を提示することにもつながると考えられる。(小島敬裕)

二つの発表に対して活発な質疑応答が行なわれた。新江氏の発表について、討論は二種類の『チャム王家年代記』の相違、暦の問題や、アンナン版年代記が書かれた動機などに集中した。小島氏の発表についての質疑は、主に在家のあり方に関してであった。

(唐立)